

ダニ媒介感染症の予防について

今夏、北海道でダニ媒介脳炎の患者さんが亡くなる事案が発生しました。
ダニ媒介感染症は道内で例年報告されていますが、死亡は初めてのことになります。

マダニは、ライム熱、回帰熱、日本紅斑熱、ダニ媒介脳炎、重症熱性血小板減少症候群など（厚生労働省ホームページ参照）の病気の原因となる病原体を保有していることがあり、咬まれることで、これらの病気に感染することがあります。



ヤマトダニ メス



ヤマトダニ オス

（大きさは2～3mm、吸血後は1cmほどになる。）

【ダニ媒介感染症の予防】

マダニに咬まれないようにすることが重要です。特にマダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まります。

マダニは、沢に沿った斜面や森林の笹原、あるいは牧草地などに生息し、家の中や人の管理の行き届いた場所にはほとんど生息しません。

流行地域などは特に注意しましょう。（ダニ媒介脳炎→特に中央・東ヨーロッパ、ロシアなど。日本では、北海道の道南でウイルスが分布していることが判明しています。）



草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、

- 長袖・長ズボン(シャツのすそはズボンの中に、ズボンのすそは靴下や長靴の中に入れる)
- 足を完全に覆う靴(サンダル等は避ける)
- 帽子、手袋、首にタオルを巻く

肌の露出を少なくすることが大事です。服は明るい色のもの(マダニを目視で確認しやすい)がおすすめです。虫除け剤の併用も効果が期待されます。

- 屋外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部(髪の毛の中)などがポイントです。



【マダニに咬まれたら】

吸血中のマダニに気がついた際、無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残り、化膿したり、マダニの体液を逆流させて感染症のリスクが高まってしまいます。医療機関(皮膚科)で処置(マダニの除去、洗浄など)をしてもらってください。また、マダニに咬まれた後、数週間は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は、早目に医療機関を受診しましょう。

【ダニ媒介脳炎について】

ウイルスを保有するマダニに刺咬されることによって感染します。感染した山羊や羊の未殺菌の乳を飲んで感染することもあります。通常、人から人に直接感染することはありません。潜伏期間は通常7~14日です。

脳炎にはいくつかの種類があり、中央ヨーロッパ型脳炎では、発熱・筋肉痛などのインフルエンザ様症状が出現し、2~4日続きます。そのうち約3分の1は、髄膜脳炎に進展し、けいれん、めまい、知覚異常などがみられます。ロシア春夏脳炎では、高度の頭痛、発熱、悪心などの後、髄膜脳炎に進展します。発症した場合の致死率は、中央ヨーロッパ型脳炎では1~2%、ロシア春夏脳炎は20%と言われており、回復しても数割の方で神経学的後遺症(マヒ)がみられます。

ヨーロッパではリスクの高い人に予防接種が行われることもありますが、日本においては未承認で市販されていません。

森林地帯に入る場合は、ダニに刺されないようにすることが、最大の予防策です。

厚生労働省ホームページ <ダニ媒介脳炎に関するQ&A>

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou18/mite_encephalitis